

**児童・生徒の現状・課題**

他者への関心が高い児童が多い。しかし、自分の伝えたいことを言葉で表現することが少し難しい児童も多く、相手と意思疎通を図ったり、折り合いをつけたりし、互いに分かり合えるようになるまでに時間を要してしまう児童も多い。



**学び続ける力を育むための重点目標**

指導事項を確認し、導入の工夫、児童とのゴールイメージの共有、選択する場面の設定などに取り組む。

児童が学習内容に関心を持ち、主体的・継続的に学習に取り組めるようにする。



**具体的な手だて①**

ICT 機器の活用

反復学習や多様な表現・共有の方法を身に付けられるようにする。教師も、様々なツールの利点を理解し、導入する。

**具体的な手だて②**

価値ある対話の共有

協働的な学びに取り組みやすい環境づくりを行う。また、より適している学習場面で設定できるようにし、教師が価値づける。



**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	70.7	75	
②学習した内容や方法、自分の力をどれだけ伸ばすことができたかなど、振り返ることができる。	88.1	90	

**具体的な手だて③ 振り返りの設定**

1時間の終わりや単元の終わりなどに振り返りの時間を設定し、本時や単元のゴールに対して、できるようになったことや自身の成長などを見つめられるようにする。



**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	85.7	88	
②【振り返る場面】授業では、学習目標の達成や学び方等について振り返る場面を設定し、児童・生徒が達成感を味わったり、次の目標をもったりできるようにしている	92.9	95	

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

・校内研修会や校内研究会の中で、「授業改革推進プラン」や日々の授業について互いに話す機会を設定し、共通理解できるようにする。

・校内研究に限らず、授業観察や各研修等で実施する研究授業を校内で公開し、互いに学ぶ機会を設定する。

**総括(8月)**

**総括(1月)**

**児童・生徒の現状・課題**

他者への関心が高く、相手とかかわりをもとうとする児童が多い。しかし、自分の伝えたいことを言葉で表現することが少し難しい児童も多く、相手と意思疎通を図ったり、折り合いをつけたりし、互いに分かり合えるようになるまでに時間を要してしまう児童も多い。



**学び続ける力を育むための重点目標**

児童自身が自己有用感を感じ、できたこと、分かったことを実感できるように計画的に授業を進める。振り返りの時間を設定し、1時間の中でできるようになったこと、単元の中でできるようになったことなど、自分の成長を確認できる場を確保していく。



**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.2	82.0	70.7
②学習した内容や方法、自分の力をどれだけ伸ばすことができたかなど、振り返ることができる。	81.3	82.0	88.1

**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	80.8	82.0	85.7
②【振り返る場面】授業では、学習目標の達成や学び方等について振り返る場面を設定し、児童・生徒が達成感を味わったり、次の目標をもったりできるようにしている	100	100	92.9

**具体的な手だて①**

**ICT 機器の活用**

映像資料や意見交流の場として、ICT 機器を取り入れていく。反復学習及び多様な表現方法を身に付けさせるために、ICT 機器を活用する。

**具体的な手だて②**

**価値ある対話の共有**

教師が児童の発言を積極的に価値付けし、発言のしやすい環境を構築する。また、全体で考えを共有できる時間を設定する。

**具体的な手だて③**

**振り返りの設定**

1時間の終わりや単元の終わりに振り返りの時間を設定し、学習時間の中でできるようになったこと、自分の成長などを見つめるようにする。



**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・校内研修会の中で、「授業改革推進プラン」や日々の授業について互いに話す機会を設定し、共通理解できるようにする。
- ・校内研究に限らず、授業観察や各研修等で実施する研究授業を校内で公開し、互いに学ぶ機会を設定する。

**総括(8月)** 全国学力・学習状況調査では、3教科とも全国、都の平均を大きく下回る結果となった。算数科、理科に関しては、全国、都の平均に比べ、下位層が厚い傾向が見られた。全体的な無回答率に関しては、昨年度より低くなったことから、最後まで粘り強く取り組んでいく姿勢をこれからも育てたい。どの教科・領域等においても、学習(内容)への興味・関心を引き出し、児童の「学び続ける力」を育むために、地道に授業改革を進めていく必要がある。書かれている内容を正しく読み取ること、知識の習得と習得した知識をどのように活用させるかに課題があることから、各学年での指導事項の定着をしっかりと行っていきつつ、関連する既習事項を丁寧に確認しながら学習を進めていくことを大切にしたい。

**総括(1月)** 日々の授業の中で、振り返る場面を意識的に設定したことで、児童が学習した内容や方法、自分の力をどれだけ伸ばすことができたかなどを振り返る力をのばすことにつながった。しかし、学年末になるにつれ、学習内容が難しくなると、自分から進んで計画を立てて学習することの肯定的な回答が低くなっているため、全校で、全教科・領域等での授業改革をさらに進めていきたい。